視　察　報　告　書

報告者氏名　自由民主党　加藤　啓子

1　期　　日　平成２８年１０月１１日（火）～１３日（木）

2　視察地及び調査事項

（１）佐賀市

自治会協議会について

（２）玄海原子力発電所

原子力発電所の安全確認について

（３）福岡市粕屋町

インテリジェンス型総合窓口について

3　所感等

（１）佐賀市

流山市において市全体の自治会加入率は低下傾向にある一方、地域で抱える問題は多様化、複雑化しており、自治会役員の負担は極めて大きなものとなり、高齢化の進展に伴い役員のなり手がない状況となっている。市内の一部の地域では、近隣の自治会で連合会を組織している場所もあるものの全市レベルの動きとはなっていない。複数の地方自治体において自治体レベルの連合会や協議会を組織する動きが広まりつつあるなか、他市への視察まで行う活発な活動をされている自治会協議会においての話を伺いコミュニティ施策検討の一助となればと視察を行った。佐賀市自治会協議会は昭和51年から自治会等振興助成に関する条例を発足して、自治会活動をサポートしてきている。現在662自治会で加入率は８２．３％と昨年度より1%減少したものの高い加入率を保っている。自治会はさらに32校区自治会長によって束ねられ、さらに自治会協議会という組織が存在している。もともと城下町である地域は行政連絡員による組織が徹底しており、市民

に市の伝達事項がきちんと伝わるような地域がらが自治会加入を当たり前としてとらえている風潮がある。校区制度があることによって学校単位でまとまりやすく、自治会が機能している理由にもなっている。自治会の市にとっての位置づけも総務部が主管していることをみても重要視していることがうかがえる。予算をつけることで自治会に対しての活動も視察研修や懇談会にも広がり活性化している。流山市も自治会に自主自立を求め自助共助を主体にするのであれば自治会の位置づけと予算付けを格上げしきちんとすべきであろう。

（２）　玄海原子力発電所

九州電力のもと、玄海原子力発電所には運転を終了した1号機を含め4号機までの発電機が存在している。九州には川内原発とこの玄海原発がある。玄海原発では社員620人、協力会社の3040人という従業員が働いている。私たちを案内してくださった所長は社員、案内の女性はパートさんであった。写真は万一の時に備えて蒸気発生器に入って訓練をする社員の話を熱心に説明する案内の女性。玄海3,4号機の安全対策の実施については、添付の資料のとおりさまざまな対策を実施し、安全対策に費やした費用は4900億円とのこと。もしもの時のために何度も訓練をしている様子を知ることができ、これで100年に1度の天災のために稼働をやめてしまうことは、なんのためにこの金額をかけて安全対策をしているのかわからない。原発反対の方々はこれらの安全対策をすべて目で見て検証してきているのであろうか。

（３）　福岡市粕屋町

現在流山市に於いては市内のおおたかの森駅に隣接する大規模商業施設内に設けている。このおおたかの森駅前にホール、出張所機能を備えた公共施設の建設を行い出張所を移転する計画である。現状でも出張所と言え、平日の延長開所や土曜日の開所を行っていることから多くの市民の窓口手続きを執り行っていることからこの出張所における窓口サービスの在り方を検討するにあたり先進事例である粕谷町の全国初といわれる「インテリジェント型総合窓口サービス」を視察した。とても広々として明るい雰囲気であるのに加え、コンシェルジェという女性が用件を聞いてくれ、窓口へ案内してくださる。最初の印象がよいとそのあとの仕事がやりやすくなっているという利点があるようであった。

コンシェルジェが誰であるのかわかるように、自費で制服を作り、職員も臨時職員も一体感を得、窓口業務にあたっていた。流山市でもおおたかの森の市民窓口センターが移転した時にはワンストップサービスやコンシェルジェサービスを導入していただくよう、会派でも予算要望していく予定である。

写真は自動で証明書が交付できる自動受付機

まとめ

先進事例を事前に調べ質問も事前に出してわが会派は視察に臨むので、視察先も手際よく質問に答えていただき、意見交換等に十分時間が取れる。特に原発のエネルギーセンターは佐賀市からかなり距離があるのであまり視察に訪れる会派も少ないようであった。実際に原発の稼働の可否について机上で本をいくら読んでもピンとこないが、実際にどのくらいの安全性が確保されているのか等を伺うと石橋をたたいても渡らないくらいの厳重さが伝わり、また、日々の社員の訓練も見聞きし、安心安全について全力で取り組んでいる姿が心に響いた。視察が無駄であるような議論がされることがあるが、百聞は一見にしかずとはよくいったもので見ることにまさる研修はないと改めて感じた。